

☆☆☆「強く 正しく 健やかな西小っ子」に！☆☆☆

大村市立西大村小学校
学校だより

一歩前へ

文責：校長 高木 修
令和8年9月1日 No.10

☆☆☆子どもが「喜んで登校し 満足して下校」する学校づくり☆☆☆

◆ 2学期スタート！！

45日間の夏休みが終わりました。本当に暑い毎日でしたが、それぞれの御家庭ではどんな夏休みを過ごされたでしょうか。7月末には「熊本地震」が、8月のお盆には「千葉豪雨」が、さらに先週は北陸地方での大雨の発生と被災地では、心穏やかではない状況が今も続いているのですが、本日、本校では予定通り2学期をスタートさせることができました。特に「熊本地震」では、本市でも大きな揺れがあり、改めて我々は自然災害と隣り合わせに暮らしていること、日本全国、どこにいても被害にあう可能性があることを実感しました。正直、不安な気持ちもあるのですが、健康や安心安全という面で常に危機意識をもち、今できることに精一杯取り組んでいかなければならないと気持ちを新たにしましたところ。2学期は約4か月間という長い学期です。各学年では、学校の外に出かける機会や行事等もあり、学びを充実させ大きく成長する学期でもあります。職員一同、心をつなげて子どもたちと向き合い、成長を支えていきたいと思っています。保護者の皆様、地域の皆様、今学期も御理解と御協力をどうぞよろしくお願いいたします。



～ 平和集会より ～

8月9日の平和集会で、話す機会をもらいましたので、その中で下記の詩を紹介しました。この詩は、豊見城市立豊崎中学校2年の亀谷琉奈(かめやるな)さんが書いた詩で、今年度の6月23日に行われた「沖縄全戦没者追悼式」で「平和の詩」として読まれたものです。

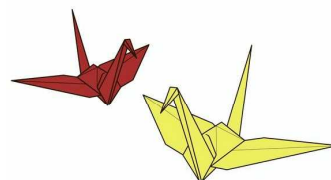
また、今年、6月20日に91歳で亡くなられた、本県出身の美輪明宏さんの言葉も紹介しました。

「生きたいと願った証」

あの日の沖縄には 青い海も 優しい風もなかった
空は黒く 地面は揺れ 人々の叫び声が絶えなかった
爆撃の音が 心まで壊していく
まだ若かった曾祖母は 小さな体で必死に走った
血だらけの道を 倒れた人たちの横を
もう動かない人を見ながら 涙を流す暇もなく ただ生きるために
そして 愛する夫の命を案じながら「お願い 生きていて」
その想いだけを胸に 足がもつれても 呼吸が苦しくても 転びそうになっても 前へ前へと走った
しかし その願いは もう二度と届かなかった
その時のことを話す曾祖母の声は 今でもとても優しい
でも 私は知っている その優しい声の奥に 今も消えない悲しみがあることを
細い足 しわしわの手 小さな背中
長い年月を生きてきたその姿を見るたび 私は戦争の重さを感じる
そして 曾祖母の右足には 今も傷が残っている
それは 戦時中 自分で引っ掻いた傷
灰色の空の下 爆撃の音が鳴り響く

恐怖と不安でいっぱいになり 右手に握った石で
自分の右足を何度も何度も引っ掻く
気づけば手も足も血だらけだった
私が真実を知った時 胸が締めつけられた
どれほど怖かっただろう どれほど苦しかっただろう
生きたい 死にたくない
その想いだけで 曾祖母は必死に生き延びた
戦争は人を傷つける 体だけじゃない 心まで壊してしまう
家族と笑う時間 友達と過ごす日々「また明日ね」と言える幸せ
そんな当たり前を 全て奪ってしまう
でもそれは 当たり前なんかじゃない
血と涙の中を生き抜いた人たちが 命を繋いでくれたから 今の私たちがいる
もし曾祖母が あの日 走っていなかったら
もしあの日 命を落としていたら 私はここにいなかった
曾祖母の右足の傷は ただの傷じゃない
「生きたい」強く願った証 「戦争は二度としてはいけない」という叫び

私はその想いを これから先も伝えていく
もう誰にも 血だらけの道を 走ってほしくないから
もう誰にも 愛する人の命が奪われることに 怯えてほしくないから
もう二度と 沖縄の空を戦争で 染めてはいけないから
平和は当たり前じゃない
たくさんの人の涙と苦しみと「生きたい」という願いの上にある
だから私は忘れない
沖縄戦で苦しんだ人たちを
愛する人を守ろうとした想いを
泣きながら生き抜いた人たちを
そして 曾祖母の右足の傷を
「生きたい」と願った証の傷を
平和な未来へと繋いでいくために



こんな世の中を生き抜く武器は 愛の言葉しかありません
この世のすべての問題を解く鍵は愛です
愛があれば 戦争なんか起こりません

※ この言葉は、美輪さんが亡くなられる前に残されたメッセージなのだそうです。言葉に力があり、とても説得力があります。子どもたちには、平和への第一歩は「周囲の人と仲良くすることだ」と話しています。「自分も自分の周りにいる人も、一人一人が大切な存在だ」ということに「気づく心」を磨いていきたいと考えています。



◆ 児童代表の言葉(2年生・5年生)

※始業式での児童代表の言葉を紹介しします。

【1学期の振り返りと2学期に頑張りたいこと】 (2の3 S.Tさん)

私は、1学期に頑張ったことが二つあります。一つ目は漢字のテストで100点を取れたことです。1年生のときは、漢字を書くのが苦手でした。でも、2年生になってから漢字を頑張ろうと思いました。1学期に授業や宿題で漢字をいっぱい練習しました。そして、最後のまとめのテストで100点を取ることができました。二つ目はオクラのお世話です。2年生になってオクラを育て、花が咲いてうれしかったです。次は2学期で頑張りたいことです。2学期で頑張りたいことは、二つあります。一つ目はあいさつです。私は1学期であまりあいさつが上手にできませんでした。でも2学期では、自分からあいさつをしたいです。二つ目は算数です。私は1年生の頃から算数があまり得意ではありませんでした。計算が苦手なので、問題をたくさん解いて得意にしたいです。九九も頑張りたいです。

【1学期の振り返りと2学期に頑張りたいこと】 (2の3 A.Sさん)

ぼくが1学期に頑張ったことは、漢字を丁寧にきれいに書くことです。宿題をするときに、おじいちゃんが「丁寧に丁寧に。」と言いながら見てくれました。そのおかげで、はみ出さないように書けるようになりました。ぼくが漢字を頑張って、友達が「すごいね、頑張ったね。」と言ってくれました。ぼくはすごくうれしい気持ちになりました。2学期に頑張りたいことは、算数です。特に計算をもっと速くしたいです。そのために、学校でも家でも計算の練習を続けていきます。そして、計算を頑張って、先生たちのように計算を速くできるようになりたいです。

【自分の夢】 (5の1 T.Yさん)

「どんな人になりたいですか。」1学期の外国語の時間に、先生からこう聞かれました。将来の夢について伝える活動です。そのときのぼくは、英語で「建築士になりたいです。」と答えました。以前、東京の高いビルを見て、「いつかこんな建物をつくってみたい。」と思っていたからです。1学期、ぼくはプールや学力テスト、ソフトボールで、あきらめずに努力することを頑張りました。以前はソフトボールで、エラーをすると落ち込んでしまい、その後のプレーまでうまくいかないことがありました。でも今は、「次の打席で取り返せばいい。」と思えるようになってきました。少しだけ、自分の気持ちを切り替えられるようになった気がします。うまくいったことばかりではありません。ぼくは、「自分が正しい」と思い込んでしまうことがあります。ソフトボールでイライラしてしまったり、学校で友達に強い言い方をしてしまったり、家の人にも言い返してしまったりすることもありました。そのときは、自分は間違っていないと思ってしまいます。時間が経って気持ちが落ち着くと、「あんな言い方をしなければよかった。」と後悔するのに、素直に「ごめん。」と言えなかったことがあります。周りの人からは、失敗したときに「大丈夫。」と言ってもらったり、励ましてもらったりしました。だから、今度はぼくも、誰かに「大丈夫。」と言える人になりたいと思うようになりました。外国語の時間の質問に、今ならもう一つ答えを付け加えられます。ぼくは、「いい人」になりたいです。「いい人」ってどんな人でしょう。ぼくは、まだその答えを全部は見つけられていません。でも、「その気持ち、分かるよ。」と言ってくれる人。「次があるよ。」と励ましてくれる人。そんな人に会って、また頑張ろうと思えます。だからぼくも、そんな言葉をかけられる人になりたいと思っています。西大村小学校で、ぼくたち5年生は6年生を支えるサブリーダーです。ぼくは何でもできるわけではないけれど、友達のちょっとした変化に気づいたり、頑張っている人を助けたりするのがサブリーダーだと思います。学校目標は「強く 正しく 健やかに」、そして「一步前へ」です。「一步前へ」は、人より前に出るのではなく、昨日の自分より少し成長することだと思います。2学期も、ぼくは失敗したり後悔したりすると思います。でも、そのたびに、「ぼくはどんな人になりたいんだろう。」と考えながら、一步一步進んでいきたいです。